

1、事業の方針

☆事業は 4 つ

①本部 ②就労継続支援事業所“わんぱく大使館”③わんぱく学園④相談支援事業

しかしながら、事業の根幹は 就労継続支援事業所“わんぱく大使館”である。障がい者のアート才能の本格的なビジネス化を促進する。

そのためには、利用者の確保・維持は必須であり、相談支援事業所の立ち上げによるサービスの質の向上が大きなポイントになる。

そのための具体策は

☆②の事業の具体策

A) ニューブランドの立ち上げ

「千鳥」、「ぶさこ」

○「千鳥」は 国宝松江城の象徴 松江城の近隣の施設での販売

来場者の増えた松江城の記念グッズとして販売、Tシャツ、てぬぐい、バッグ、アートファイルなど検討。松江から発信。スタートは7月中旬

○「ぶさこ」世はネコブーム。単なるブームに終わらせないように、癒しの決定版として売り出す。ぶさこは 土江理事長の飼い猫のようなノラ猫、ブログでも人気。愛くるしい魅力で、各種商品を開発、全国的に販売したい。スタートは7月末 出雲ガスショールームでのアート展から始めたい。開催予定7月30(木)～8月11日(火)の水、土日を除く2週間の期間。

B) わんぱくデザイン研究所の立ち上げ

○今年のエキスポ オランダとの共催、間違いなく注目を集める。その機会に、わんぱく大使館所属のアーティストの作品を核に 広くデザイン研究所として、アーティストを確保し、デザインとして、広く企業に取り入れてもらうようにしっかりした窓口を作る。またこの研究所の根幹事業として、伝統の“五色天神”を制作、販売する。伝統文化の継承も大切な役割。研究所の場所は 当面アトリエ「おちらと」とする。

特にその運営のために人員は必要なく、法人の中で、担当を配置する。当面 B型の中のプロジェクトとする。

C) 新たな軽作業の受注による工賃アップ

出雲 SOLAR I E 大社太陽光発電所、6万平方にハーブを植える仕事を受

注、社長の石原俊太郎氏の計らい。8月、9月に植え、以降 管理・保守の
仕事の受注を目指す。

D) アート展での販売増大を目指す。

○県内外活動

岡山ソロプチミスト西リジョン大会 4月末

島根大学医学部病院 5月、出雲ガスショールーム 7月～8月 “我輩はネ
コである展” 他

○第5回チャレンジド アート エキスポ2015

10月16日(金) 17日(土) 18日(日)

ビッグハート出雲

○第4回チャレンジド アート コレクション2015

都内ギャラリー策定中 2～3日間予定

E) 相談支援事業所の事業展開

就労継続支援に通う利用者は、利用者の生活全般について、支援、相談に
のる相談支援事業所に登録しなければならない。この制度を自ら持つこと
で、現在の利用者へ、安定したケアができ、さらには新たな利用者の確保に
つながる。

運営責任者は、現サービス管理責任者が兼用し、運営、その後、本事業所
の利用者が増えれば、支援員を追加する。その費用は市への申請によって、
支給される。

☆本部事業の拡大

○会員特典を充実する。関連商品の割引、

☆「わんぱく学園」新たなメニューの開拓

★新たな外部講師の参加による新たなメニューづくり

例：バトミントン たこ焼きづくり、

★絵本化、あるいは単行本化 企画

☆新たな事業による事業拡大・検討事項

★相談支援事業所の立ち上げ、運営の事業

★グループ ホーム設立 平成28年3月